

2021年十大ニュース

1. 肥料輸入原料高騰・逼迫と緊急転換事業

肥料輸入原料の調達困難と価格高騰に翻弄される一年となった。世界的資源高に加え、中国がとうもろこし等の国内生産を確保する為の国内用肥料確保を優先する為に肥料原料の輸出を制限・一定期間差し止めたこと等が主因である。遠因は米中関係の不安定化にもあると言える。それゆえ、肥料の製品価格は、秋肥、春肥二回連続の価格上昇に加え、これでは全く追いつかず、年明け早い時期の期中改定が噂されている。ことは価格問題に留まらず、一部の輸入原料調達そのものが不調に陥り、一部の現場では混乱が起きている。これに対し、2008年のリーマンショック時の肥料価格高騰の際に発出した生産者への支援金のような政策の発出が要望・期待されるが、農水省はそのような支援金発出を見合わせている。代わりに「みどりの食料システム戦略」の流れで来年度の通常予算として準備していたと思われる「肥料コスト低減体系緊急転換事業」(堆肥などへの転換を支援)を急遽補正予算として計上し「緊急」と銘打って肥料高騰対策にも活用しようとしたようだが、残念ながら喫緊の問題の改善には効果が極めて薄い。

2. 米価格下落、需要減

農林水産省は2021年産9月の相対取引価格(卸値)が、全銘柄平均で13,255円(60kg当り、税込み)で前年度同月と比較し12%(1,888円)下落し、2年連続で15年産米以来の安値と発表した。作柄については、北海道(108)や東北(102)が好天に恵まれ豊作だったが、北陸(97)、東海(98)以西は夏場の低温・日照不足の影響でやや不良の県もあり、全国平均では平年並み(101)となり、全国の収穫量は700万トンと需給見通し(703万トン)を下回る予想となっている。しかし年々コメ需要が減少する中、コロナ禍で飲食店などの外食需要が急減したことにより、20年産米を中心とした過剰在庫がある上に更に加わることで、米価下落となっている。

農林水産省はコメの供給量を調整し価格下落を食い止める為、一定期間保管する産地や業者などに保管料を助成する現行の事業に15万トンの特別枠を新設し支援内容を厚くする方針だが、農家の苦悩は一段と深まり出荷量が多い大規模農家ほど打撃が大きくなっている。

3. みどりの食料システム戦略

農水省が進めている『みどりの食料システム戦略』では、「肥料」については、何を根拠に算出したのか説明はないが、「2050年までに化学肥料(尿素等の無機質窒素肥料を含むNPK全体)を30%減らし、その内20%は『堆肥』等の『有機質肥料』への置き換えにより実現し、残り10%を純減させる」としている。「化学肥料(無機質窒素肥料)の有機質窒素肥料への置き換え」の「狙い」について同省の取り纏め部局は、「温室効果ガスの排出削減」ではなく、「肥料流亡低減→環境保全→絶滅危惧種保全」や「限られた天然資源の節約」であるという。実際、環境省管轄の日本国公式データを見ると、「無機質窒素肥料」を「有機質窒素肥料」に置き換えても単位N当たりの「温室効果ガス排出量」は変わらず、寧ろ若干増える可能性さえある、と書かれており、農水省の公式資料

にも「排出量削減の為の重点施策」に「肥料の文字はない」。にも拘わらず、農水省の中には「無機質窒素肥料を堆肥に置き換えるとガス排出量が若干低減する。」との宣伝をして「堆肥」の使用を推奨している部局がある。家畜の糞尿処理に困る畜産に協力して「堆肥」の消費量を増やしたいという意図は理解するが、あたかも「温室効果ガス低減」に寄与するかのような誤解を与える説明は避けるべきである。環境問題に重点を移す世界的潮流には全く異論ないものの、個々の政策・施策の「狙い」と「想定効果」は明確にしてもらう必要がある。

4. 全肥商連事業関係

(1) 新年賀詞交歓会

新型コロナウイルス感染者数減少の中、令和4年の全複工との合同賀詞交歓会の開催を模索したが、残念ながら令和3年同様、賀詞交歓会・特別講演会共に中止とした。

(2) 全国研修会

新型コロナの影響で令和4年7月に延期する予定とした金沢での「第56回全国研修会」開催は、もう1年延期することも含め対応を検討中である。

(3) 施肥技術講習会

新型コロナ感染者数が減少した機会を捉え、11月25日(木)～26日(金)、福島県郡山市にて「第31回施肥技術講習会」を開催した。通常年4回行う処一年振りということもあり多数の方々から参加希望を頂いたが、新型コロナ対策の一環として福島県及び隣県の方に限り102名に限定して受講頂いた。会場では、検温・消毒・マスク着用を徹底し、座席も間隔をあけた指定席にして、事後のフォローも可能とし概ね無事に終了した。次回は令和4年2月15日(火)～16日(水)東京(於:東京農大)を予定している。

(4) 理事会、社員総会

理事会は、1月13日(水)令和2年度第2回、8月19日(木)同第3回、9月14日(火)令和3年度第1回、11月10日(水)臨時、全てをZOOMによるWEB会議で実施した。9月14日(火)令和3年度社員総会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、委任状又は議決権行使書による総会とし、講演会・懇親パーティーは中止した。「令和2年度事業報告・収支決算報告」、「令和3年度事業計画・収支予算案」等上程した全ての議案に付き全会一致で原案通り承認可決された。

5. 新型コロナウイルスパンデミックとその後の世界

6. 国際社会と中国問題

7. 環境問題への国際的取り組み

8. 菅前首相退陣、岸田政権発足、衆議院議員選挙

9. 東京オリンピック・パラリンピック開催

10. 大谷翔平・松山英樹・大阪なおみ選手始めスポーツ選手達の活躍